

## 京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

### 1. 研究課題

生と創造の探究—環世界の人文学

Exploring Life and Creativity—the Studies of Umwelten

### 2. 研究代表者氏名

岩城卓二

Takuji IWAKI

### 3. 研究期間

2017年04月 - 2020年03月 (3年度目)

### 4. 研究目的

本研究班は、2015年度から二年間にわたって行われた共同研究「環世界の人文学」の問題意識と成果を受け継ぎつつ、さらなる研究の深化と発展を目指す。本研究班の基底をなす問いは、人間を含む「生きもの」にとって「生きる」とはどのような営みであるのか、というものである。本研究班の課題は、生きものとその周囲の世界との相互作用と不断の変転に着眼しつつ、生命の持続と創造的な変容の過程を探究することを通して、従来の人文学からの脱皮を目指すことである。本研究班では、「環世界」を単なる抽象概念として扱うのではなく、生きもの相互の「あいだ」や「空気」、さらにはそれらの関係の中で生まれる技術や言説など、具体的な事象に寄り添いながら考えることを主眼に据える。具体的な事例の検討と学際的な議論を通して、本研究班は、無文字の知も含めて生きものとしての人間が培ってきた「生き抜くための知」を多角的に探究していく。

By focusing on the lives, skills, interactions, and boundaries of both humans and nonhuman beings, this research explores a new field in the humanities. This research project, which is based on both philosophical arguments and concrete case studies, investigates the comprehensive issues concerning life and Umwelten. It tackles various critical topics, such as agriculture, natural and man-made disasters, mining developments, religious practices, illness and care, and scientific technology. Through a thorough investigation of the lives of, and the interaction between human and nonhuman beings, as well as of their unique Umwelten, this project seeks to understand the ‘worlding’ of human beings as a part of life on the planet.

## 5. 研究成果の概要

本研究班では、3年間で 68 回(報告者 77 人)の研究会を開催した。成果はラカン、デュラス、ティモーシー・モートン等の哲学者の議論から〈環世界〉概念を捉え直した「生の理論的考察」、呪術・野生動物・建築・変形菌等を対象に生き物・動物・人工物から〈環世界〉を問うた「非人間をめぐる」、病理・生理・循環・ゴミ・空気をキーワードに、人間がゴミになるとき、ボロとクズ、無意識の循環と再生の論理から〈環世界〉を問うた「排出と循環:ゴミの人文学」、鉱山・養殖・食糧危機・用水・山林荒廃を対象に生業・技術・科学・遊びから〈環世界〉を問うた「生の実践」の 4 つに整理することができる。哲学・文学などによる理論的考察と、フィールド・人物に即した実践的報告が融合することで、〈環世界〉概念を批判的に深化させることができた。また、歴史学・芸術学・哲学・文化人類学・民俗学・文学・言語学・経済学等々、多彩な分野の研究者が議論を重ねたことで、大きな人文系学問のネットワークができたことも大きな成果である。

## 6. 共同研究会に関連した公表実績

・2019 年 7 月に班員の藤原辰史『分解の哲学 腐敗と発酵をめぐる思考』(青土社)が刊行された。2019 年 12 月 16 日に、京都大学人文科学研究所において、本研究班の養殖・水資源の利用・人と動植物の関係という成果とをふまえ、韓国・済州大学校の李 榮敦氏、立命館大学の朴美貞氏を講演者とする国際シンポジウムを行い、韓国・済州島の事例から水と生業、生活の実態に関する報告・討論を行った。

## 7. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究成果報告書として『地球危機時代の人文学—生・環境・文化をめぐる歴史と理論』(仮題・人文書院 2021 年 3 月刊行予定)の準備を進めている。